

「福島県相馬市災害ボランティアセンター活動レポート」

派遣日程：平成 23 年 4 月 22 日～27 日 6 日間

派遣場所：相馬市災害ボランティアセンター

4 月 22 日午後 3 時過ぎ、相馬市に到着した時は曇天で、時おり小雨交じりの天候でした。数名のスタッフの方々が、活動から帰ってくるボランティアさんに向かえる準備中で、忙しそうに動き回っていました。

相馬市は福島県の浜通り（沿岸部）の北部に位置する人口約 3 万 7 千人の町です。3 月 11 日の地震により大津波が押し寄せ、沿岸部を中心に甚大な被害が発生しました。

福島市から国道 115 号線を走行し相馬の地に立ってみると、市街地は住居の瓦屋根が崩れている様子が各所見受けられるものの、比較的平穏さを保っている印象を受けました。

4 月 23 日、災害ボランティアセンターのスタッフに同行し沿岸部へと足を運ぶと、市街地の平穏さとは天と地ほどの差に、言葉を失う風景が広がっていました。津波の強大な威力により、町が根こそぎ消失している状況と、1 ヶ月を経過してもなお生活の建て直しどころか、憔悴しきっている住民の方々の姿がありました。

ボランティアセンターに寄せられるニーズ被災者宅の床板はがしや泥かき、家財道具の移動等の力仕事、避難所サポートや物資の仕分け作業等に毎日多くのボランティアさんが志願しています。24 日の日曜日は天候も晴れたことから、約 140 名のボランティアさんが活動しました。皆さん、被災者や被災地の復興を願い、毎日汗を流しています。この日、横浜からこられたご夫婦のご主人は「保険会社に勤務し、業務も非常に忙しいのですが、何かできることはないかと思ってきました」と。ご主人は泥かき作業へ、奥様は看護師の資格があり避難所の活動を行いました。「今日帰るんです！」と日帰りでの活動でした。

相馬は現在、泥かきなどのニーズは減少傾向にあり、平日は市内のボランティアさんで対応可能な状況になりつつあります。25 日以降、GWを控え、市外・県外から活動の問合せが多く寄せられていましたが、ニーズは充足されつつあります。ボランティア活動という行為が、時に被災者や被災地の思いとすれ違う場合もあるので、もしこれから東北各所の被災地へ向かおうとお思いの方は、事前に電話などで現地の状況を問い合わせ、確認してから向かってください。痛んだ心に「寄り添う活動」を大切にしていきたいと思います。

